



2023年 1月 25日 担当 アノジ

船舶保険料 8割上げ

国内の損害保険各社は25日から、ロシア領海を運航する液化天然ガス（LNG）船向けの保険料を約8割引き上げる。地政学リスクの高まりを受け、保険金支払いの一部を肩代わりする海外の再保険会社が再保険料を引き上げたためだ。日本企業が参加する石油・天然ガス事業「サハリン2」からのLNG輸入の運搬コストに影響する。

東京海上日動火災保険、損害保険ジャパン、三井住友海上火災保険の各社は、戦争による船体の損害を補償する船舶戦争保険の保険料を引き上げる。大型LNG船の船体価格は200億円規模とされる。保険料はこれまで1200万円程度だったが、今後は2000万円超に高まる見通し。

損保各社は2022年末に、ロシア領海向けの保険提供を23年1月1日から停止すると通知した経緯がある。英国の再保険会社が引き受けを停止したためだ。損保各社が交渉を進め、1月からも保険提供ができることになった。英再保険会社は1月1日時点では再保険料を据え置いたが、足元で引き上げた。



2023年 1月 25日 担当 アノジ

7カ月ぶり高値 原油 4日ぶり反落 米景気懸念で

25日朝方の国内商品先物市場で、原油は4営業日ぶりに反落して取引を始めた。取引量が多い6月物は1キロリットル6万5090円と前日の清算値に比べ1020円安い水準で寄り付いた。前日24日発表の米景気指標の結果などを受けて世界経済の悪化による需要減少が意識されたことから売りが先行している。

米S&Pグローバルが24日に発表した1月の米総合購買担当者景気指数（PMI、速報値）は46.6と前月から改善したものの、引き続き好不況の境目とされる50を下回った。同日の米市場で米原油指標のWTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）期近3月物が前の日比1.8%安で取引を終え、国内原油先物にも売りが優勢となっている。半面、25日の東京外国為替市場で前日夕と比べ円安・ドル高が進んでいる点は相場を下支えしている。

金は4日続伸している。中心限月の12月物は1グラム8080円と前日の清算値を7円上回る水準で取引を始めた。その後は8096円と、中心限月として2022年6月13日以来およそ7カ月ぶりとなる高値をつける場面があった。24日の米債券市場で米長期金利が

低下し、金利のつかない資産を裏付けとする金先物の相対的な投資妙味が増すとの見方から買いが入った。

白金も4日続伸している。中心限月の12月物は1グラム4355円と前日の清算値を14円上回る水準で寄り付いた。

日経新聞



2023年 1月 25日 担当 アノジ

広範囲で大雪警戒 「最強寒波」太平洋側でも

上空に流れ込むこの冬一番の寒気の影響で、日本列島は24日、広い範囲で降雪や強風、低温に見舞われた。気象庁によると、強い冬型の気圧配置は26日にかけて続き、北日本から西日本にかけての日本海側で大雪となり、太平洋側の平地でも局地的に大雪が見込まれる。

気象庁によると24日午後9時現在、この日の3時間あたりの最大降雪量は岡山県真庭市で32センチを記録し、観測史上最多を更新。気温は全国300超の観測地点で今季最低を記録、北海道奥尻町米岡は氷点下13・0度で観測史上最低だった。最大瞬間風速は観測史上1位の34・8メートルを午前4時32分に記録した北海道根室市厚床を含め、全国90地点で1月の記録を更新した。

大分県別府市では24日午前11時55分ごろ、市内の団体職員、高原重伸さん（62）が強風で倒れたとみられる木で頭を打ち、その後死亡が確認された。

25日午後6時までの24時間に予想される降雪量は、多い所で、北陸90センチ▽東北80センチ▽関東甲信、東海、近畿、中国70センチ▽北海道50センチ▽九州北部30センチ▽四国25センチ▽九州南部20センチ。

25日にかけて予想される最大風速（最大瞬間風速）は、北海道、四国、九州南部25メートル（35メートル）▽関東甲信、北陸、近畿、中国、奄美、沖縄23メートル（35メートル）▽九州北部20メートル（35メートル）▽東北、東海20メートル（30メートル）。

気象庁は沖縄県を除く46都道府県で、25日の最低気温が氷点下になると予想している。

毎日新聞



2023年 1月 25日 担当 アノジ

12月印刷・情報用紙国内出

荷、6.2%減で4カ月連続のマイナス

		生産		出荷計				在庫		(参考)輸入*			
		前年比	前年比	前年比	国内出荷	輸出	前月比増減	前年比	前年比				
12月													
	紙・板紙計	1,914	▲3.9	1,951	▲5.9	1,850	▲3.8	101	▲32.9	1,893	▲37	66	▲16.8
	紙計	929	▲5.0	948	▲6.8	894	▲5.5	54	▲23.0	1,057	▲19	45	▲16.5
	新聞用紙	165	▲4.7	164	▲7.1	164	▲7.1			152	+1		-
	印刷・情報用紙	498	▲3.1	500	▲7.2	464	▲6.2	36	▲18.4	642	▲2	41	▲15.5
	非塗工紙	125	▲5.9	126	▲6.5	120	▲5.1	7	▲26.9	207	▲1	1	▲67.7
	塗工紙	277	▲3.2	279	▲8.5	251	▲7.8	28	▲13.9	308	▲3	5	▲71.4
	情報用紙	96	+0.9	95	▲4.2	93	▲3.1	1	▲47.2	126	+2	36	+17.8
	包装用紙	63	▲12.8	62	▲10.7	52	▲7.1	10	▲26.1	91	+1	1	+65.6
	衛生用紙	150	▲3.8	166	▲1.7	165	▲1.7	0	▲3.7	75	▲16	1	▲54.3
	板紙計	984	▲2.8	1,002	▲5.1	956	▲2.1	47	▲41.6	836	▲18	21	▲17.4
	段ボール原紙	808	▲3.7	826	▲5.8	782	▲2.6	44	▲40.9	609	▲19	3	▲26.0
	白板紙	115	+1.1	113	▲0.8	111	+1.6	2	▲52.0	140	+2	17	▲16.6
	グラフィック用紙	663	▲3.5	664	▲7.2	628	▲6.4	36	▲18.4	793	▲1	41	▲15.9
	パッケージング用紙	1,101	▲4.1	1,121	▲5.7	1,056	▲2.5	65	▲39.0	1,025	▲20	24	▲14.8
<累計>													
(参考)	紙・板紙計	23,662	▲1.2	23,717	▲0.7	21,822	▲0.5	1,895	▲2.7	1,893	▲37	844	▲12.0
	紙計	11,274	▲3.5	11,412	▲2.1	10,574	▲1.8	838	▲6.6	1,057	▲19	571	▲18.0
	新聞用紙	1,854	▲6.3	1,864	▲6.9	1,864	▲6.9			152	+1	1	▲54.7
	印刷・情報用紙	5,995	▲5.1	6,111	▲2.4	5,559	▲2.4	552	▲2.8	642	▲2	523	▲19.0
	非塗工紙	1,554	▲7.8	1,593	▲4.6	1,481	▲5.2	112	+3.9	207	▲1	18	▲46.5
	塗工紙	3,333	▲3.9	3,393	▲1.3	2,979	▲0.9	414	▲4.1	308	▲3	92	▲57.6
	情報用紙	1,108	▲4.5	1,125	▲2.7	1,099	▲2.5	26	▲9.4	126	+2	413	+4.6
	包装用紙	842	+1.3	851	+1.8	683	+4.1	168	▲6.7	91	+1	12	+33.8
	衛生用紙	1,870	+4.0	1,877	+4.6	1,876	+4.6	1	▲26.6	75	▲16	18	▲28.7
	板紙計	12,388	+1.1	12,305	+0.6	11,248	+0.6	1,057	+0.6	836	▲18	273	+4.1
	段ボール原紙	10,201	+0.7	10,128	+0.3	9,131	+0.3	997	+1.0	609	▲19	43	+27.7
	白板紙	1,436	+4.4	1,431	+3.0	1,372	+3.4	58	▲5.8	140	+2	218	▲0.9
	グラフィック用紙	7,849	▲5.3	7,975	▲3.5	7,423	▲3.6	552	▲2.8	793	▲1	524	▲19.1
	パッケージング用紙	13,944	+0.7	13,864	+0.3	12,523	+0.6	1,341	▲2.7	1,025	▲20	302	+5.6

(注) 1. 国内工場の生産高・出荷高・在庫高による。
 2. 紙計は「その他の紙」、板紙計は「白板紙以外の紙器用板紙」、「その他の板紙」を含む。
 3. 在庫の前月比増減は数量(千トン)表示。
 4. 輸入*は11月

日本製紙連合会が発表した2022年12月の紙・板紙需給速報によると、紙・板紙の国内出

荷は前年同月比3.8%減で4カ月連続のマイナスとなった。用途別では、グラフィック用紙

が6.4%減で11カ月連続のマイナス、パッケージング用紙が2.5%減で3カ月連続のマイ

ナスとなっている。

印刷・情報用紙の国内出荷は前年同月比 6.2%減で 4 カ月連続のマイナス。その他の品種では、新聞用紙が 7.1%減で 19 カ月連続のマイナス、包装用紙が 7.1%減で 21 カ月ぶりのマイナス、段ボール原紙が 2.6%減で 3 カ月連続のマイナス、衛生用紙が 1.7%減で 14 カ月ぶりのマイナスとなった一方、白板紙が 1.6%増で 8 カ月連続のプラスとなっている。

Pj web news



ウメモト インフォメーション



2023年 1月 25日 担当 アノジ

コスモ HD、山田新社長を発表

コスモエネルギーホールディングス（HD）は山田茂取締役常務執行役員（57）が4月1日付で社長に昇格する人事を正式発表した。山田氏は洋上風力発電などの再生可能エネルギー事業を主導してきた。脱炭素の流れを受けて、主力の石油需要は減少が見込まれる。事業構造改革を進める体制を築き、石油元売り業界での生き残りを目指す。

桐山浩社長（67）は代表権のある会長に就く。24日に開いた記者会見で、桐山氏は「能力や人間性、リーダーシップにたけている。リーダーにもっとも必要な明るい性格ももちあわせている」として、山田氏を次期社長に選んだと話した。

山田氏は石油製品の生産計画の立案を手がける供給部での経験が長い。経営企画の部署に移ってからは洋上風力プロジェクトなど大規模な投資案件や新規事業に関わってきた。同社は陸上風力と洋上風力あわせて2030年度に150万キロワット以上の設備容量の目標を掲げる。

石油元売り業界では原油開発や石油製品の販売で稼いできた従来のビジネスモデルからの転換が急務だ。3月に発表する23～25年度の中期経営計画を山田新社長のもとで実行に移し、脱炭素に向けた戦略を進める。

今後の事業戦略について、山田氏は「電源開発、電力調整、販売を含めたグリーン電力事業のサプライチェーン（供給網）を拡大したい」との方針を示し、「（洋上風力など再生エネが中核となる）新しいコスモをつくっていきたい」と意気込みを語った。

日経新聞